

所沢市立富岡中学校だより 第13号

令和5年3月16日

松の風

明日を背負いて

住所：所沢市神米金404

電話：04-2942-0312

FAX：04-2942-5642

<https://tomioka-jh-tokorozawa.edumap.jp/>

第76回卒業証書授与式

令和四年度送辞

あれほど、厳しかった冬の寒さも、今では暖かな春の陽気に変わりました。教室に差し込む太陽の光が、新しい季節の訪れを伝えてくれます。

三年生の皆様、本日はご卒業おめでとうございます。在校生一同、心よりお祝い申し上げます。

三年生は小学生の頃から私たちの先輩であり、中学生になってからも私たちのお手本として富岡中学校を支えてくれる憧れの先輩でした。例えば、委員会の仕事や学校行事では多くのことを教えてもらいました。また部活動では下級生の私たちに、部活動の楽しさや部活動に対する熱い気持ちに気づかせてくれました。今でもその楽しさや熱さは富岡中学校の伝統として大切にしています。体育祭では新型コロナウイルス、感染防止の観点から学年毎の開催となってしまいました。教室での授業中、窓の外から先輩方の応援し合う声が聞こえてきました。先輩たちの姿を直接見られなかったのはとても残念でしたが、その応援はとても力強く、三年生らしいパワフルさを感じました。松の木祭では、今年度、例年通りの合唱をすることができました。三年生の合唱曲はパートの数が多く、難易度の高い曲を歌っていましたが、その歌声は、いくつもの声が重なった奇麗なハーモニーとなっていました。そして、指揮者を中心に本当にまとまりのある歌が奏でられていました。その力強く、優しいハーモニーを奏でる姿は、私たち在校生の心の中に今も残っています。そして私たち在校生にとって道しるべとなる歌声を残していただきました。富岡中学校の伝統といえるよう、私たち在校生が引き継いでいきます。

そんな三年生も中学校生活を終え、前途洋々、順風満帆な社会の大海原へと出航します。人生、山あり谷あり、時には大波に会うこともあるかもしれません。そんな時は本校で過ごした三年間を思い出してください。富岡中学校で力を合わせたこと、笑いあったこと、辛いことや苦しいことをみんなで乗り越えたこと、仲間と共に過ごした日々は、かけがえのない瞬間だったと思います。富岡中学校での学びを活かし、苦難を乗り越えられることを在校生一同、信じています。

今日、別れの時が来ました。私たち在校生は先輩方の姿を忘れません。三年生が漕ぎ出す大海原が希望に満ち溢れることを心から祈りし送辞といたします。

令和五年三月十五日 在校生代表 田中 志岳

令和四年度 卒業生答辞

桜前線が上昇し、春の足音が徐々に近づいています。私たち三年生六十七名は今日、この富岡中学校を卒業します。そして、このような式を挙げてくださりありがとうございます。

新型コロナウイルスの影響によりさまざまな行事がなくなるなど残念なことが多かった三年間でした。ですが、そのような中、こうして卒業まで迎えることができたのは、多くの人の支えがあったと思います。部活動や委員会などでサポートしてくれた在校生の皆さん。行事や登下校を通して見守ってくださった地域の方々。時には厳しく、時には優しく指導してくださった先生方。毎日、私たちの生活を一番近くで支えてくれた家族。それ以外にもまだまだ多くの方々に支えられてきました。本当にありがとうございました。

学校の中で私たちと同じ生徒として共に生活してきた在校生の皆さん。多くの問題があった三学年でしたがついてきてくれてありがとう。そして、来年からの新たな後輩との生活を楽しみ、頑張ってください。今の仲間と過ごす時間はあっという間です。今を全力で楽しんでください。応援しています。

そして、学校行事で多く支えて下さった地域の方々。特に支えてもらったのは、農業体験です。一日という短い関わりでしたが、強く記憶に残っている三年生も多いでしょう。あまり農業の知識がない私たちに優しく一から教えてくださいました。畑に囲まれた富岡地区で自然に触れることができ、貴重な体験となりました。

そんな三年間の中の多くを過ごしてきた学校で、一番近くで見守って下さったのは先生方です。修学旅行での不要物の持ち込みをはじめ、多くの迷惑をかけてしまい、怒られることが多々ありました。ですが、私たちのこと見捨てるようなことはせず、ともに私たちの成功を喜んでくださった先生方を私たちは忘れません。そして受験でのサポートや面接練習など協力して下さった優しさに感謝します。私たちは、それぞれ違う夢に向かいます。期待し、応援してほしいです。

三年間の中で一番近くで支えてくれたのは家族です。日常生活はもちろん、塾や習い事の送り迎えや健康面でのサポートなど感謝しています。そして、これまでの人生の中で一番の大勝負とっていい入試へ挑む私たちを一番近くで支えてくれました。今までありがとうございました。そしてこれからもよろしくお願いします。

「今の三学年はどんな学年か。」そう問われたとき、みんな口をそろえて「元気な学年だ。」そう答えます。度々元気の度を通り越して問題を起こすこともありました。ですが、体育祭や松の木祭では、仲間と協力し、各クラスが団結していました。各々の個性が輝く舞台となり、記憶に残っている生徒も多いでしょう。友達を応援する元気、全力でやる元気、様々な元気が集まり、この三学年ができています。そんな三学年のみんなとは、今日でお別れです。一年生の最初の頃は、同じ小学校の人たちで固まっていた。ですが、そのころとは変化し、六十七名全員が多くの友達を持ち、だれとでも気軽に話せる仲となっています。思い出深い友達が多いほど別れが悲しくなるでしょう。いつも隣で笑わせてきたり、共に頑張ったりした友達。これは、何にも代えることのできない宝物です。時間は常に進むものです。新たな世界での新たな出会いを夢に見て一

人一人、道を歩いていきましょう。三年生のみんな今までありがとう。中学校生活は今日で終わりです。これから先、様々な壁にぶつかると思いますが、自分を信じて、自分の道を貫いて行って下さい。私たちの可能性は、未知数です。「やるときはやる」三学年の良さを忘れず、未知の自分に会いに行こう。

最後になりますが、今まで支えて下さった在校生の皆さん、地域の方々、先生方、家族、その他多くの方々に感謝すると共に、富岡中学校の益々のご発展を願い、答辞とさせていただきます。

令和五年三月十五日 卒業生代表 荒畑 悠世

校長式辞

暖かな春の風に誘われて、今年は例年になく春の訪れが早く、校庭の木々の「つぼみ」がほころびはじめ、色とりどりに咲き始めた花々がお祝いするかのように感じるこの良き日に、多くの保護者の皆様のご臨席のもと、所沢市立富岡中学校第七十六回卒業証書授与式が挙行できますことに、心よりお祝い、そして感謝申し上げます。

六十七名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。今、皆さんの入場する姿から、三カ年の学びを経て、立派に成長した自信と誇りを感じます。

三年ぶりにマスクをはずして、皆さんの誇らしげな顔をしっかりと見ることができ、うれしく思います。保護者の皆様も成長したお子様の顔をご覧になって感慨深いことでしょう。

思い返せば、皆さんが中学校に入学してからコロナに翻弄される三年間でしたね。入学式は緊急事態宣言で二カ月も遅れ、その間、友だちができるか、学習は遅れないか、どんな先生かなと心配が尽きない日々だったことと思います。保護者の皆様も学校はいつから再開されるのか、また家族が感染しないようにと不安や苦労の日々が続いたことと推察いたします。

我々も初めての経験で試行錯誤の日々でした。何かと不自由もかけたと思います。学校はさまざまな制限のある生活で、「我慢」を強いられることが多く、スキー教室の中止、修学旅行も延期を余儀なくされました。その後、活動が徐々に再開され、三年生の一学期の終わりには一泊二日に縮小されましたが修学旅行に行くことができました。タクシーによる班別行動から宿に帰ってきたときの皆さんの笑顔、夕食時の楽しそうな様子をたくさんカメラに収めることができました。三年生の最後の体育祭も、先日配布された「富中PTAだより」に掲載されている集合写真の皆さんの表情から、笑顔とたくましさが見て取れます。

先生方にとっては、皆さんの「笑顔」が頑張れるエネルギーとなっていました。学校は本来のあるべき姿に戻りつつあります。そこには、この三年間富岡中学校を守ってくれた、引き継いでくれたここにいる卒業生のお陰です。本当にありがとうございました。

さて、本日めでたく卒業の日を迎え、「中学時代」から新たなステージへと「あゆみ」を進めていく皆さんにひとつ話をします。

「日本を美しくする会」の 鍵山秀三郎（かぎやま ひでさぶろう）氏の話です。

「幸せ」には三つの「幸せ」があるそうです。一つ目の「幸せ」は「もらう幸せ」です。皆さんが生まれて、間もないころ、ご飯を食べさせてもらったり、お風呂に入れてもらったり、服を着せてもらったり。そんな時、皆さんはとてうれしく幸せでしたね。

二つ目の「幸せ」は、「できる幸せ」です。字が書けるようになったり、一人で自転車に乗れるようになったり、中学生になってからも様々なことに挑戦し、「できる幸せ」をたくさん味わってきたことでしょう。それが皆さんを成長させることにもつながりました。

三つ目の幸せは、「あげる幸せ」です。友だちが落ち込んでいたり、悲しんでいるときに、そっと寄り添ったり、励ましたりすることによって、友だちから喜ばれたり、頼りにされたりします。「あげる幸せ」を感じる心は、相手のことを思う尊い心なのです。

卒業生の皆さんは、中学校生活の中で様々な「幸せ」を経験したことでしょう。我々教職員も皆さんから多くの「幸せ」をもらいました。本当にありがとう。これからも、多くの人に「幸せ」をあげてください。人間として大切にすべき心がそこにあります。

さあ いよいよ出発のときが近づいてきました。

卒業生の皆さん、先ほど、私が、一人ひとりに手渡した卒業証書は三カ年の学びの「証明書」であるだけでなく、これからの人生への「許可書」でもあります。その「許可書」を持って、いろいろなことに挑戦して行ってください。

結びにあたり、保護者の皆様、お子様のご卒業、心よりお祝い申し上げます。義務教育最後の日に、在校生と保護者様に参列していただいたことはこの上ない喜びを感じています。義務教育九カ年の責務を果たし終えることとなりますが、引き続き、次のステージでの活躍の支援をお願いできれば幸いです。この三年間、本校の教育活動に対し、ご理解ご支援を賜りましたことに心より御礼を申し上げます。皆様のこれからの輝ける前途を祝して式辞といたします。

令和五年三月十五日 所沢市立富岡中学校長 渡邊 弘之

在校生たちが、卒業生のために式場（体育館）、校舎内外の清掃、教室等の飾りつけをしてくれたお陰で立派な卒業式ができました。ありがとうございました。

